



むぎの郷

October 2016

つうしん

発行/麦の郷情報管理委員会
〒640-8301 和歌山市岩橋643
TEL(073)474-2466 FAX(073)474-4637
<http://www.muginosato.jp>

“麦の郷とは” 住民のニーズから生み出され、
住民の手によって育てられる

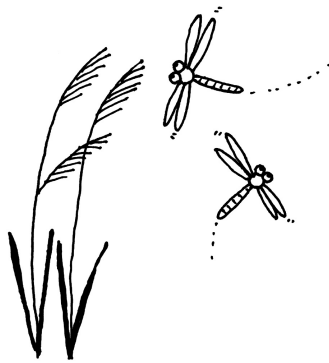
ソーシャルファームピネル/くろしお作業所/くろしお作業所分場/
麦の郷訪問看護ステーション/麦の郷居住福祉事業所/はぐるま共同作業所
/はぐるま共同作業所 和の杜/はぐるま共同作業所 ラ・テール/
けいじん舎/麦の郷印刷/障害者就業・生活支援センター「つれもて」
/麦の郷 和歌山生活支援センター/麦の郷紀の川生活支援センター/
ハートフルハウス 創/おぎピース/障害児者サポートセンター「麦の
郷」/こじか園/第二こじか園/こじか親子教室/ソーシャルファームも
ぎなた/Po-zzk/六星舎/事務所/麦の郷障害者地域リハビリテーション
研究所



くろしお作業所 エコ班レク 9.9 (金)



ピネル旅行 10.15 (土)・16 (日)



ナイスハート基金
ふれあいのスポーツ広場 9.21 (水)



私たちのめざすもの ~麦の郷4つの理念~

- 1).麦の郷は、日々学び、育み、発信し続ける人材を育成し、地域福祉の発展を目指します。
- 2).私たちは、ものづくりを通じて障害のある人と地域の共存を実現し、互いに豊かになる実践を目指します。
- 3).私たちは、社会的不利の状態におかれている人々の課題を解決するために、広範な人々をつながりを深め、ともに社会変革をめざします。
- 4).麦の郷は、全ての人々が平和で安心して暮らせる社会づくりのために人の輪を紡いでいきます。



JDF総合災害支援本部 熊本支援センター派遣に ついての報告

今回、私自身始めて災害派遣に行ってきたので報告させて頂きます。まず、災害支援JDF熊本支援センターの概要ですが、現地の障害者団体等で構成される「被災地障害者センターくまもと」と一体となって被災地支援の取り組みを進めています。当面は、県・市町村の要請のもと、関係団体と連携しながら障害者の訪問活動を行うとともに、障害のある人のくらしの支援や避難所での生活支援、被災事業所での活動支援等を行っています。

主な活動は●被災地障害者センターくまもとの協力（生活支援等）●益城町総合体育館避難所支援●事業所支援であり、今回の派遣は9月11日～17日までのクールで全国から13名が支援に入りました。

多数の支援施設の中で私は益城町総合体育館に派遣され被災障害者への相談支援を中心に活動しました。

1週間の限られた活動期間ではありましたが、今回のクルーは災害発生5ヶ月、益城町最後の仮設住宅



入居者決定、市内の避難所が全て閉鎖、益城町最後の避難所の閉鎖時期の発表があり、それらに伴う被災者の動揺と不安、障害の方々への寄り添いが重要な期間でもありました。

まず、益城町の現状として、体育館には依然、214名（9月16日現在。ピーク時1352名）の避難者が生活しています。大半は第四次（最終）仮設で仮設住宅に転居、住宅改修待ちの方やみなし仮設の交渉中の方もおり、69名が行き先未定となっています。障害の有無にかかわらず、避難所では生活のしづらさを多数抱えています。

また、益城町総合体育館は町からの委託で熊本YMCAが避難所運営も任されていることから、安心、安全を最優先に考えて運営しています。日頃から障害故の暮らしぶらさがある上に更に、暮らしぶらさが募り、精神的ストレスは計り知れません。特に精神障害の方は避難場所では障害を開示出来ない環境の中、細心の配慮をしながらの支援でした。そんな中で、障害者支援をしていくには支援チームとの密な連携が必要であると感じました。

しかし、益城町は災害以前より町に社会資源が無いに等しく、行政も被災し公助が全く機能していない状況でした。災害避難所対策チームには福祉の専門家はおらず、県外からの応援人



員が多く、社会資源の把握が非常に困難な状況が続いています。

今回の支援で感じた事は、JDFは障害者の声に耳を傾け続けてきた今だからこそ、被災障害者のその声を次の形につなげていく時期に来ているという事です。

益城町の方と熊本YMCA、JDFが被災後、力を合わせてきたからこそ出来る事、それが復興に繋がる一助になればと思います。

亡くなられた方へご冥福を、被災された方々へ一日も早い復興を心よりお祈りするとともに、今この現状を伝え、各々が災害についてしっかり考えてもらえる機会となればと思います。
(谷口)

第1回

結い言講座

去る8月31日、結い言

講座が開催されました。

私が、聞き手として、お話を聞きましたが、想い出がいつぱいで、とても楽しい時間を過ごさせて頂きました。

伊藤さんは、住民票を移してまでして、地域に入っていました。自治会長を二度もして：な



ぜ、ここまでしたのか…麦の郷の仲間のためです。伊藤さんと、この講座で過去を振り返りながら話しているうちに、自分の地域との関わりも思い出しました。

良いことばかりではなく、辛い事の方が多かったと思いますが、伊藤さんと歩んできた地域との活動は、他には真似出来ないものだという想いがあります。

なぜ、地域との活動があるのか、なんの為にしているのか、長年していると、忘れてしまいつつになりますが、この講座で、改めて、理解出来た気がします。

全ては、麦の郷の仲間のためです。

毎年、花見や夏祭りなど、スタッフ総出で開催していますが、この活動の意義を今一度確認した上で、これからも一緒に活動して行きたいです。

地域との交流は、行事のように捉えられるかもしれませんが、それは違います。顔をお互いに見るといふことなんです。それが、地域の皆さんとの関係を作ります。そして、お互い様の関係作りの基礎を作ります。私達は、地域のなかで活動しています。

そこを忘れてしまつては、いくら現場で仲間と良い取り組みをしたとしても、自己満足になつてしまいます。地域の中で、仲間と活動しているといふ事を忘れてはいけないと、伊藤さんに教えて頂きました。それは、実になり花を咲かせていきました。

これを継続・発展させていく事が僕たちの役割だと思えます。

また、私達が地域を活性化していけるような活動をしていけば、共生社会に繋がっていくんだと思います。

地域活動は地道な活動です。だからこそ、信念が無いと続きません。信念を持って、法人全体で活動して行きたいです。

このような機会を与えて頂いた事に感謝します。伊藤さん、これからも宜しくお願い致します。ありがとうございました。(山本哲)

きょうざれん研修

『荒彫塾』入塾しました!

きょうざれんの研修の一つに、『荒彫塾』というものがあります。(『あらぼりじゅく』と読みます。)荒彫塾って何?と、皆さんが思うように、私自身も最初は右も左もわからないような状態でした。簡単に説明すると、きょうざれんが企画している人材育成のための研修です。全国のいろいろな支部から希望者を募り、今年度は第6期の募集でした。

ある日突然、『推薦するので、行ってきてくれる?』との声がかかり、その日は頭の中がハテナマークでいっぱいでした。だけど、こういう機会に声がかかること自体ありがたいことだと思い、引き受けました。あつという間に、入塾決定のお知らせが届き、セミナーの直前までプレッシャーなどに悩まされました。

8月初旬、2泊3日の前期セミナーが東京で

ありました。10名の第6期生が初めて集まりました。岩手、東京、埼玉、神奈川、滋賀(2名)、兵庫、和歌山、福岡、熊本と、バラバラの地域から集まったのですが、世代もよく似ていて、福祉の仕事に就いてから10年くらい経つ人ばかりでした。

2泊3日の前期セミナーでは、いくつかのプログラムが準備されていました。講義やグループワーク、ディスカッション、先輩荒彫塾生の体験談を聴くなど、です。印象に残っているのは、最終日に国立ハンセン病資料館に見学に行ったことです。ここでは元患者の語り部さんからの話を聞かせていただきました。言葉では表すことのできないくらい、インパクトのあるお話でした。語り部さんの生きるパワーを全身で感じました。すごく衝撃的だったので、終わったあと茫然としてしまったのが正直なところです。話の中で、『人間の生きる力』や、運動は継続していかなければならないということ、様々な気付きのあつた時間でした。2泊3日の研修で、きょうざれん運動のことも学び直し、初心に立ち帰れたような気がします。また、学ぶことつて大切なことだと実感した時間でもあつたので、続けていきたいと思えます。

荒彫塾の任期は、2年あります。それまでの間に、いろいろな研修があり、それに参加していくこととなります。研修を通じて、また他の塾生やたくさんの人と会うことで、人として成長できればいいなと思っています。2018年の5月頃までと、まだまだ先は長いですが、がんばります。(道幸)

和歌山高次脳機能障害

リハビリテーション講習会

明日へ、あきらめない

9月19日(月)13時30分、和歌山県勤労福祉会館プラザホープ4階で行われた和歌山高次脳機能障害リハビリテーション講習会に参加させていただきました。

高次脳機能障害とは、脳出血や脳梗塞といった脳卒中、交通事故や労働災害による外傷による脳への損傷が原因で生じる障害で、どなたにでも起こりうる障害です。記憶や注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害など、仕事や車の運転、家事や他者とのコミュニケーションに至るまで社会参加・生活に大きな困難をきたすことになる障害です。

また損傷を受けた脳の位置等によって障害も個人的差異がある・障害の自己認知が難しいなど、本人だけでなく周囲の人の理解が必要な障害と言えます。

第1部では、東京慈恵会医科大学附属病院、国立成育医療研究センター等で多くの高次脳機能障害者の治療を経験されてきた橋本圭司先生から、「羅心版」について学ばせていただきました。

高次脳機能障害は、リハビリテーションによって改善する可能性が高く、その方法の一つとして



集団行動支援プログラムである「羅心版」に効果が期待されています。

内容としては、当事者・医師・OT・STを交えたグループで集団セッションを行い、当事者の方に「目標」を出してもらいます。目標実現するためにグループから「明日からできること」を提案された中からいくつかを本人が選び、次の日から「自己実現」できるように支援します。また、セッションを行うことで当事者の方の前頭葉に顕著な変化が認められ、自発性・やる気・意欲・モチベーションなどといった「社会的行動の為の活力」を回復させるための刺激となるという実践の話聞かせて頂きました。

第2部は、実際にステージでこのプログラムが実演され、ワークショップフラットの仲間の方が参加されました。目標は「就職したい・一人暮らしをしたい：そして結婚したい!」。明日からできることは「自分の得意なことを活かす・人と挨拶する時に笑顔を見せる」でした。小さな一歩かもしれないけど人生を楽しく生きるための大きな一歩だと思えます。はにかんだ笑顔から人の心を魅了する心からの笑顔に変わるよう積み重ねていってほしいと思えました。

高次脳機能障害の方は外見上「見えない障害」と言われ、障害への周囲の理解が伝わりにくく、特に重度の方は当事者家族が抱えざるを得ない状況にあるといえます。中途障害の方の作業所も少ない現状であり、広げていくことが急務であると言えます。

(城喜)

わかやま

子ども・若者の

貧困問題を考える

ネットワーク会議

2013年6月、子どもの貧困対策の推進に関する法律が施行されました。翌2014年には、「子供の貧困対策に関する大綱」が閣議決定されました。この法律や、大綱では、「子供の将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、また、貧困が世代を超えて連鎖することのないよう、必要な環境整備と教育の機会均等を図る」ことや「全ての子供たちが夢と希望を持って成長していける社会の実現を目指し、子供の貧困対策を総合的に推進する」ことが重視されています。そんななか、和歌山の子どもの貧困率が17.5%と全国平均の13.8%を上回っているとの調査報告がありました。子ども・若者の生活をめぐる事実は深刻です。

わかやま子ども・若者の貧困問題を考えるネットワーク会議は、子ども・若者の暮らしや発達・医療・司法と関わる方々が参加し、子ども・若者が安心して暮らし発達できる社会を築くことを目指したいと考えていきます。私たちのネットワーク会議は、緩やかなネットワークを和歌山のおちこちに築くことを目指しています。発足会には、ある医療福祉機関のトップの

方も、1歳前のハイハイを始めた赤ちゃんを連れられたお母さんも、学校の先生になって2年目の方も、来年退職する小学校の先生も、様々な方が、職業上の鎧を脱いで参加されました。そこで、私たちの子どもや孫のこと、さらにこの社会のことを共に考える仲間として歩むことを確認しました。私たちは「なかまがいるから楽しい。なかまと一緒に、子ども・若者の為に歩めるからうれしい」と、その思いを確認しあつたのです。自由な発想の下で、体力のある人は体力を、お金に余裕のある人はお金を、ヒントをいっぱい持っている人はヒントを出し合うことの必要性を、発足会で確認しあいました。

また、発足会では、福岡の坪井恵子さんから、9月の例会では社会福祉法人桃郷の山本発達相談員から深刻な事例の報告がありました。今回は11月です。

(山本耕)

麦の郷ハートフルハウス創 主催



夏休み企画

山崎邸 びんや祭

ハートフルハウス創の活動拠点である山崎邸では、これまで、地域の方々にたくさんのご協力を頂き、様々なイベント企画を行ってきました。しかし、子どもたちを対象としたイベントがあまりなかったこともあり、地域の子もたちが気軽に立ち寄れ、一緒に楽しめるイベント

をしようとして、創のメンバーと一緒に会議で話し合い「山崎邸 こども祭り」を計画しました。

初めての企画でどれくらい子どもたちが来てくれるかと不安もありましたが、近所のお店や地域の方にお知らせしたり、ポスターを貼らせて頂いていたこともあり、地域の小学生や園児が十数人集まってきました。

7月に創のレクで行った流し素麺の竹を組んで、みんなと一緒に流しそつめん！次々に流れてくる素麺を上手にすくう子どもたち。これはどうか！とサプライズでミニトマトやミニゼリーも流すと、「コロコロつるりと流れるので、「わくこれ難しいー！」と言って大盛り上がりでした。途中、クラブ帰りの高校生も通りがりに寄ってくれたり、裏のおばあちゃんも「なにやら楽しそうにやってるね〜」「珍しいよー流し素麺なんて初めてやよ〜」と入ってきてくれました。

その後はかき氷を食べたり、手作りコーナーでプラ板や、発砲トレイで作った魚をプールに浮かべて魚釣りゲームをしたり、創のメンバーがボードゲーム(*)を教えるゲームとは、アナログゲームや非電源ゲー



ムとも呼ばれ、単純なカードゲームやゲーム盤や駒、カードといった道具を多用する複雑なものもあり、二人から複数人で対戦や協力して行うゲームです。創では日頃の活動の中で遊びを通して人とのつながりが広がればと、ボードゲーム遊戯会なども開催しています。

最近ではポータブルゲームやスマホでひとり遊びをしている子どもも少なくはありません。ですが、ボードゲームも流し素麺もひとりではできないものです。そんな人とのふれあいや、老若男女問わず同じ空間で楽しみを共有できることが大切だと感じています。

今回、地域の方々にはこの企画の趣旨にご賛同頂き、たくさんの方の素麺やご寄付を頂くことができました。また「地域における公益的な活動モデル事業」の助成を受けることができたことにより、子どもたちの遊びや学びの場など今後みんなが集って楽しめるイベント等を企画して行けたらと思います。

そしていつでもどこにきたら安心できる居場所として、困りごとがあったら相談できたり、子どもも若者もお年寄りも誰もが孤立することなく、お互いが助け合える仕組みをこの山崎邸を拠点に創っていけたらと思います。

(森橋)



三菱きんぎょの販売

はぐるま共同作業所 製パン事業部

去る9月24日、はぐるま共同作業所製パン事業部で三菱電機黒潮会主催の「黒潮祭」に参加しました。

3年前に、福利厚生事業の一環の販売活動に参加したことがきっかけで、「黒潮祭」の福祉貢献ブースに参加しないかと誘っていただきました。この祭りは、約5千人規模の祭りで、従業員及び関係者だけではなく、大勢の地域の方を巻き込んだとても賑やかな祭です。広い会場には、関連会社の方が出すブースや、飲食店の移動販売車等バラエティーに趣向を凝らした店が並んでいました。わたしたちは、普段の販売活動で接することのない人たちとふれあう事ができる貴重な機会になりました。

これまで仲間、いろいろな場所、いろいろな場所で販売活動してい



ることもあり、人の多さにのまれてしまうことなく、近くのテナントの賑やかさにも負けないうちに「いらしゃいませどうぞ」「こちらがお薦めです」と張り切って接客をしていました。「去年買って、美味しかったから今年も買いに来たよ。」と言ってくくださるお客様の言葉に一同元気を頂いています。夜の販売で疲れているにも関わらず、「来年もこの販売に参加したいわ」と笑顔を見せてくれる仲間でした。

これからもお客様に喜んでいただけるような商品作りを頑張っていきたいと思えます。

(山本直)

なかよし班 旅行

くろしお作業所分場

なかよし班では、9月8日から一泊二日の旅行に行ってきました。今年の旅行は電車を利用しての大阪めぐりです。台風の影響で天候が心配されましたが、当日は見事な晴天。爽やかな気候の中、大阪めぐりを満喫することができました。今回の旅行について、稗田雅三さんが感想文を書いてくれましたので、ご紹介します。

一日目アベノハルカスで展望台から大阪周辺の景色を見ました。昔の大阪ドームです。

よく行っていたので懐かしいです。大阪の美術館ではゴッホなどを見ました。スパワールドの大温泉へ僕と竹友さんと一緒に入って気持ち



絵：米田裕有子さん

絵：上野須美子さん

よかったです。夕食はオムライスを食べお土産は熊さんのストラップを買いました。部屋に戻ると城さんと川口君が遊びに来ました。2日目はなんぼグラウンド花月で坂田としおのコントや大木こだまひびきの漫才、その後の新喜劇では酒井あいさんが面白かったです。お土産はまんじゅうを買いました。終わってから地下鉄でなんばから天王寺まで行きました。そこから紀州路快速和歌山行に乗り紀伊駅で降りました。

稗田 雅三

今回の旅行では近いけれどもまだまだ知らない大阪を皆が体調を崩すこともなく満喫できました。街の人もとても親切で、スパワールドの大浴場では、他のお客様が色々丁寧教えて下さいました。心温まる忘れられない旅行になりました。

(佐々木)



紀北青少年の家に行ってきました

和歌山生活支援センター

9月30日〜10月1日に仲間10名とスタッフ7名プラスつれもての鈴木氏の全面的なバックアップのもと一泊レクに行ってきました。15時出発だというのに参加者は12時過ぎたところから続々と集まりだして、遅刻した人はひとりもなく支援センターから紀北青少年の家に向かって出発しました。到着後、部屋に荷物を置いたらBBQの準備です。積極的に手伝ってくれる人、見ている人、どこかに行っちゃう人とさまざまでしたが、

お肉に野菜、焼きそばなどなどお腹いっぱいになるまで食事をしました。予定していたキャンプファイヤーは、雨のために室内でのキャンプドゥファイヤーに変更しましたが、紀北青少年の家の担当の井本さんの楽しい進行で、わたし



は誰でしょう？等ゲームをして交流しました。

2日目は、かつらぎ町の阪口農園さんでミカン狩りをした後、ムリーノさんで昼食を頂きました。ゆつくりの食事をした後、参加した仲間にご自分の感想を教えてくださいました。

内容は、

◎参加できて良かった

◎つかれました

◎キャンプドゥファイヤー楽しかった

◎BBQとムリーノのカレーが美味しかった

◎BBQの時、少し雨だけど楽しめた

◎ムリーノのカレーおいしかった

◎楽しかった

◎交流会の時お酒飲んで楽しかった

◎ミカン狩りたくさん食べられて良かった

でした。

最後になりましたが、お世話になった方々がありがとうございました。心よりお礼申し上げます。
(河本)

Po-zkk雑貨店 オープン!!



8月19日にPo-zkkが運営するセレクトショップ「ポズック雑貨店」が紀の川市粉河の

作業所Po-zkk横にオープンしました。

ペンキ塗りや木工作业が得意なメンバーも手伝って、カラフルなおもちゃ箱のようなお茶目なお店になっています。取扱商品はメンバーが制作している刺繍小物やだるま、木工製品、へんてこ

かわいいから、グッと心をつかまれるステキなイラストのTシャツやトートバック。ポーチ、文具などのポズック雑貨。それとこちらが選んだ和歌山の素敵な作家さんの商品(陶芸、皮小物、紅型、木彫りスプーンなど)。最近では期間限定でミヤンマー雑貨も少し置いてあります。

まだまだ数少ないので、メンバーのセンスを活かした商品や遊び道具を増やして、更なるおもちゃ箱のようなお店にしたいと考えています。

お店をオープンしたことで、自分のイラストや制作したものが商品となり、お店に並んでいるのが目に見えるので、メンバーの中には意識が向上した人も出てきています。

一から商品を作り、並べ、自ら販売して店を運営することで、学ぶことはとても多いので、メンバー、スタッフの得意な事を活かして、補い合いながら共に歩いていきたいと思っております。

一度遊びにきてください☆

(奥野ま)



麦の郷 40周年記念企画
感謝を胸に
つむぎつないでつたえよう



あんざい いくろう
講師：安齋 育郎氏

- ・安齋科学・平和事務所所長
- ・立命館大学名誉教授
- ・立命館大学国際平和ミュージアム名誉館長

日時：2017年1月21日(土) 10時～
場所：ビッグ愛 大ホール 入場無料

記念講演：10：30～12：00

テーマ「平和」

記念企画：13：00～15：00 (終了予定)

仲間の舞台発表・仲間の座談会 他

原発や放射能の専門家として、長年、原水爆禁止運動に取り組む。核・被爆者問題に精通し、平和問題のコメンテーターとしても活躍。また、超能力を批判的・体系的に検討する自然科学概論の講義がマスコミで紹介され、振り込め詐欺など含め、世の中の諸事象に騙されないよう、警鐘を鳴らし続けている。

助成ありがとうございました

ハートフルハウス創

この度、和歌山県民間社会福祉施設経営者協議会様が行う平成28年度「地域における公益的な活動モデル事業」により、「子ども・若者の貧困対応ネットワーク準備促進事業」の助成をいただきました。事業では、地域住民の皆さんや地域の福祉機関や施設、社会福祉協議会に呼びかけ子ども・若者の貧困ネットワークを開設し、相談、居場所等の可能性を探りたいと思います。

また、紀の川市粉河で活動するハートフルハウス創の若者たちが、山崎邸子ども祭りを開催し、無料での昼食(流しそうめん・餅つき等)や、体験コーナー(世界のボードゲームで遊ぼう・工作、鑑賞会等)等、随時企画をおこないたいと思います。ありがとうございました。(野中)

麦の郷 こだわり市

イズミヤ スーパーセンター紀伊川辺店様のご支援により定期的に店内にて、出店ブースを開設させていただいています。出店時間内には、麦の郷の商品販売の紹介を店内放送で告知していただき、お客様が立ち寄り下さることもあります。はぐるま共同作業所やむぎピースの仲間も、販売に参加することもあり店内に元気な声が響いています。皆様も是非、お立ち寄りください。(島)

これからの予定

11月4日(金)・11月18日(金)

12月16日(金)・1月20日(金)

時間：13：30～15：00

場所：イズミヤスーパーセンター紀伊川辺店内
総合サービスコーナー横



麦の郷印刷
赤井 洋揮

麦の郷印刷B型の職員をしています赤井です。麦の郷印刷に入り7年になります。その中で印刷は大きな動きがたくさんありました。A型加工場が直川から六十谷に移転し、そこにB型施設が新たに誕生して多機能型に変わりました。そして自分もA型の加工場からB型を任されるようになり戸惑いも大きかったですが、今は、みんなと作業をしたり、相談されたり、一緒に笑ったりしていることで大きな達成感、充実感を毎日味わっています。

他の部署の方にもお世話になり、相談したりすることで色々学ぶことも出来るのはもちろんですが、今の現場でもっともって学び、新しい道を作り、みんなの工賃を上げたり、作業場の向上を目指しながら日々取り組みたいと思います。

これからも府中の麦の郷印刷はもちろん、六十谷も加工場とB型がありますのでよろしくお願ひします。

平成29年(2017年)
西暦
年賀状印刷
ご注文受付中!!
ご注文はFAXでもOK!

年賀状印刷
承ります

麦の郷印刷
TEL
073-464-3707
FAX
073-464-3708